

# 巻頭言

## 『年年歳歳花相似、歳歳年年人不同』

理事長 新谷 友良

桜の花の季節が巡ってきました。身を硬くしていたのが、梅の花で少し肩が柔らかくなり、桜の開花とともにこころも体も一気に解放されるのを感じます。

桜の名所はいろいろありますが、生まれたところの近くに吉野山がありました。「上の千本、中の千本、下の千本」といわれる有名な桜の名所ですが、なぜか桜の季節に行った記憶がほとんどありません。また、学生時代には平安神宮や御室の桜も何度か見たはずなのですが、ほとんど記憶に残っていません。若いころは、桜よりも関心を持つものが多く、立ち止まっている時間が少なかったのが原因と思います。

桜がきれい、本当に良い花だと思うようになったのはここ10年ぐらいで、住んでいるマンションの前の川沿いの桜は本当にきれいだと思います。冬を越してつぼみが膨らんでくると、ときどき木の幹をさすってみますが、結構あったかく感じます。開花前の桜の木は気のせいかわ赤みを帯びて見えて、1、2本の枝に花が咲きだすと一斉に開花となる数日は見事です。晴れた日など、朝早めに青空を背景に満開の桜を見ると、気持ちが非常に清々しくなります。

唐詩選に出てくる「年年歳歳花相似、歳歳年年人不同」の詩句は「自然の悠久さと人間の生命のはかなさを対峙させた」と注釈されています。(細川景一著・2000. 11. 禅文化研究所)「花は毎年同じように咲くが、花を見る人は毎年変わっていく」桜の木から見た定点観測のように読めますが、注釈には「一緒にこの花を見た人はもはやこの世にはいない。若いと云うがすぐ年老い、黒い髪も白くなってしまふぞ!」という警告が続いています。

桜の木の寿命は60年といわれていますが、前の公園の桜はかなり古い木が多く、年に数本は寿命や虫食いで切り倒されています。区立の公園で、切り倒した木の代わりに若木が移植されて年々少しずつ入れ替わっているの、何十年かたった公園の情景は今のままではないかもしれません。人の移り変わりのサイクルとは随分違いますが、毎年花を咲かせる木にもサイクルがあるようで、黒い髪も白くなってしまったわが身は、毎年桜にも「歳歳年年花不同」のような感慨を持ってしまいます。